



昨年の年末手当交渉では…!



満額獲得! 2017年末手当 ③

これまでと昨年の年末手当交渉では何と言っていたのか?!

経営側は、毎回、お決まり?のようにネガティブ要素だけを理由に挙げてきました。

これまでの交渉を振り返ってみると、三年前までは「リーマンショック前」と言い、これを超えた一昨年は、全く比較にならない社員8万人、バブル絶頂期である四半世紀前の「平成4年の営業利益には達していない」と言いました。そして、昨年の年末手当交渉では昨年から積み立てを開始した新幹線鉄道大規模改修引当金の繰り入れ等による営業費用増の影響により営業利益がマイナス(減少)であることを引き合いに出し、「営業利益をベースに考えている」と、またもやネガティブ要素だけを理由に挙げてきました。

第1四半期の営業利益は前年比44億円増(同103.9%)!

7月に発表された今年度第1四半期決算における営業利益(単体)は、前年比44億円増(同103.9%)の1,202億円とプラスの数字となっています。

年末手当シリーズ①、②でも述べたように、会社の業績は好調です。支払い体力も十分にあります。しかし、これまでの会社回答は、社員の頑張りや苦勞に対して、納得できるものではありません。

今月末には第2四半期決算も発表され、来月に入ると年末手当要求に基づいた交渉が開始されます。会社の一人勝ち、出し渋りを許さず、みんなで声をあげ、職場からの運動でたたかっていきましょう!

出し渋りを許さず、声をあげ、 職場からの運動で年末手当を勝ち取ろう!